

【報道関係各位】

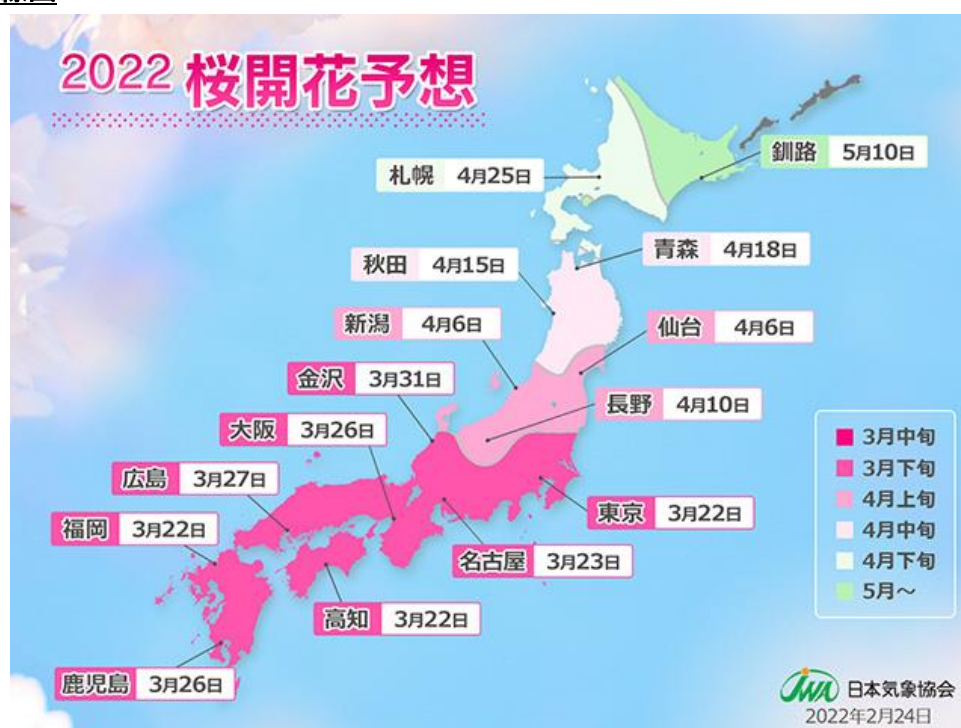
2022年2月24日
一般財団法人 日本気象協会

2022年桜開花予想（第3回）

3月は春らしい暖かさに 東京の開花は3月22日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国49地点の桜の開花予想（第3回）を、2022年2月24日（木）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

都道府県	地点	開花予想日	開花予想傾向	平年開花日	昨年(2021年)開花日
鹿児島県	鹿児島市	3月26日	平年並	3月26日	3月17日
福岡県	福岡市	3月22日	平年並	3月22日	3月12日
高知県	高知市	3月22日	平年並	3月22日	3月15日
広島県	広島市	3月27日	平年並	3月25日	3月11日
大阪府	大阪市	3月26日	平年並	3月27日	3月19日
愛知県	名古屋市	3月23日	平年並	3月24日	3月17日
東京都	千代田区	3月22日	平年並	3月24日	3月14日
長野県	長野市	4月10日	平年並	4月11日	3月29日
新潟県	新潟市	4月6日	平年並	4月8日	3月29日
石川県	金沢市	3月31日	早い	4月3日	3月23日
宮城県	仙台市	4月6日	平年並	4月8日	3月28日
秋田県	秋田市	4月15日	平年並	4月17日	4月4日
青森県	青森市	4月18日	早い	4月22日	4月13日
北海道	札幌市	4月25日	早い	5月1日	4月22日
北海道	釧路市※	5月10日	早い	5月16日	5月8日

※エゾヤマザクラ



開花の傾向

2022年の桜の開花は、西日本から関東で平年並みのところが多いでしょう。北陸と東北の一部、北海道では、平年より早く開花する見込みです。なお、全国で記録的に早い開花となった2021年と比べると、広島と島根では二週間以上遅く、その他の主な地点でも一週間前後遅くなるでしょう。

開花のトップは、3月21日の熊本となる見込みです。22日には東京や福岡、23日には長崎と名古屋で開花するでしょう。24日には大分や和歌山、横浜で開花し、3月末までには西日本から関東、北陸までの広い範囲で開花となる見込みです。新潟や長野、東北では4月上旬から中旬に開花するところが多くなりそうです。4月下旬には、桜前線は北海道へ到着し、4月25日に函館と札幌で開花するでしょう。

この冬(12月～1月)は、たびたび強い寒気が流れ込み、2022年のスタートは年越し寒波の影響を受け、全国的に厳しい寒さとなりました。1月6日には関東で4年ぶり、21日には京都で5年ぶりとなる大雪に見舞われました。全国的に厳しい寒さの日も多く、桜の花芽の休眠打破^{*}は順調に行われたとみられます。

2月下旬になっても全国的に寒さは続いています。2月末から3月のはじめにかけて、全国的に気温が高く、その先も東日本と北日本では平年より高くなる見込みです。季節は春に向けて少しずつ進んでいます。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 27 日 (木)	第 2 回 2 月 10 日 (木)	第 3 回 2 月 24 日 (木)	第 4 回 3 月 3 日 (木)
第 5 回 3 月 10 日 (木)	第 6 回 3 月 17 日 (木)	第 7 回 3 月 24 日 (木)	第 8 回 3 月 31 日 (木)
第 9 回 4 月 14 日 (木)	第 10 回 4 月 28 日 (木)		

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5～6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80% 以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月、2 月中は 49 地点、3 月以降は全国で 89 地点の予想を発表します。予想地点 89 地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる 36 地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 16 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。